

でんち

一般 電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 中谷謙助

平成25年2月1日

新年賀詞交歓会を開催

一般社団法人電池工業会は、平成25年1月11日東京プリンスホテルで「平成25年新年賀詞交歓会」を開催した。また、これに先立ち同会場にて「平成24年度優良従業員表彰式」を実施した。

一般社団法人電池工業会 本間会長挨拶

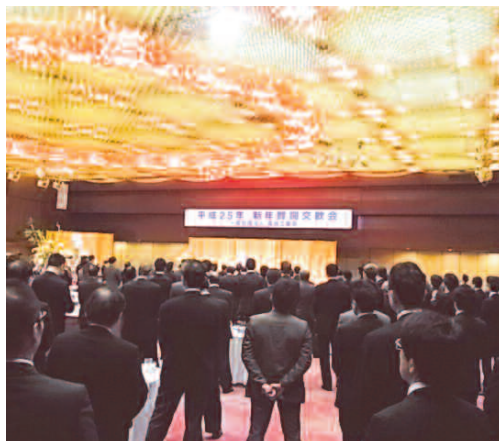
昨年は主要各国のリーダーが一度に交代した大変珍しい年となりました。わが国も年末に政局の指導権が自民党の安倍政権へと移行して、矢継ぎ早に大型補正予算、金融緩和策、そして緊急経済対策、デフレ脱却、円高是正、成長戦略など、具体的な政策が打ち出されつつあります。これらの政策や施策がスピーディーに実行されて、実態経済を改善させ、日本の産業全体の国際競争力を再び高めることができれば、日本の経済産業の再生・復活はかなうものだと信じております。

エネルギー問題については、限られた資源でつくられた電力を大切かつ効率的に使うとした、新たな考え方が定着してきました。最も理想的には、エネルギーの地産地消。消費者が、消費地で自ら電力を

つくる。それを賢く効率的に消費できれば最適ではないかと考えております。それには、電力会社と再生可能エネルギーで作られた電力を無駄なく活用するために、蓄電池を導入し、貴重なエネルギーを省エネ住宅、省エネビル、そして省エネ機器に無駄なく賢く使用することを日本全国で推進させることが必要ではないかと思えます。

これに加えて、電力のピークカット、ピークシフトの重要性が認識されはじめておりますが、これを一般住宅、商業ビル、病院、地域全体に普及させることにより、本格的なスマートハウス、その先のスマートグリッド社会の構築が見えてくるのではないかと考えています。

これらの仕組みを作り上げるには、より競争力のある蓄電池システムの導入が重要となります。既に



昨年末に定置型蓄電システムの設置に対する補助金制度を設けていただき、普及しはじめております。電池業界にとりましては、従来の民生用途から大型電池用途、すなわち産業用途での市場の広がりが見えはじめています。

環境対応車向け電池も同様に、将来は非常な大規模の使用になり、本格的な大型蓄電池の幕開け元年になるのではないかとみています。もちろん、乗物のみならず、医療分野では介護用ロボット等の電池の活用等にも広がりを見せることは間違いのない事実です。

昨年、経済産業省で部局横断の「蓄電池戦略プロジェクトチーム」が発足し、目標やビジョンが発表されました。基本的な考え方は、大型蓄電池として系統電力用の貯蔵用蓄電池、定置型蓄電池、車載用蓄電池の3つの分野で構成され、これら3分野の2020年の世界市場規模を20兆円と予測。日本はその世界シェア50%の10兆円を確保して再び電池産業の分野で主導権を取り、輸出産業としても大きく成長させるという目標が設定されております。

そのための前提として、電池の性能・特性の向上と原価低減が具体的な目標として示されています。電池産業は、今や日本の主要産業として大きな期待が寄せられていることを認識し、その責任の重さを感じなければならないと思います。このような活動を通じて、日本市場に新たな産業を創出し、雇用機会を創出する原動力としての電池産業を築いていく必要があるのではないかと考えております。

もちろん、大型蓄電、車載用蓄電という新しい市場をつくる際に必要なことには、電池の回収とリサイクルの課題があり、これを避けては、電池のビジネスのサイクルは結了できません。これは、電池を熟知し、民生用で多くの実績を持つ電池工業会のミッションの一つとして、他の業界団体の方々と積極

的な姿勢で持てる叡智を提供し、共に実現すべきものと考えております。

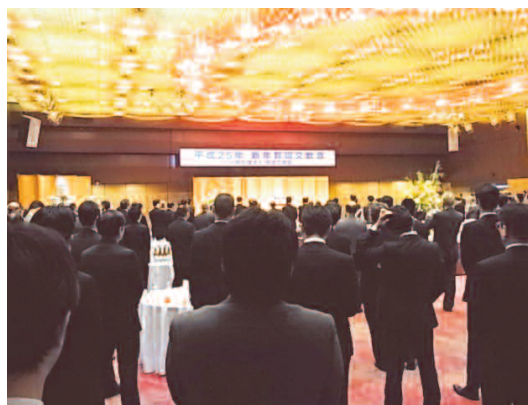
現実の電池業界を取り巻く環境は、きわめて厳しい状況が続くものと思わねばなりません。その先には、大きな成長の将来像が描けております。私たち電池工業会は、志を全員で共有し、将来の成長に向け、新しいエネルギー、新しい産業創出、そして新しいエコでスマートな社会の構築を下支えできまうように尽力してまいりますので、皆様方の一層のご指導・ご支援・ご鞭撻をお願いいたします。

経済産業省商務情報政策局情報通信機器課 荒井勝喜課長挨拶

昨年は厳しい年ではありましたが、蓄電池、リチウムイオン電池などは非常に注目を浴びた用語だったと思います。蓄電池は、車載用、工場・オフィスなどの定置用、家庭用、電力用を含めて非常に幅広い用途に使われていてかつポテンシャルが非常に大きい分野だと思っております。日本の誇る重要な技術であり、まだまだ日本の国際競争力が高い分野だと思っております。電池の普及には、コスト面が非常に重要だと思っております。価格の引き下げにより電池の普及に火がつけば、需要と供給の好循環がなされてくると思っております。皆さまにはコスト削減に努力いただき、経済産業省による需要促進の施策、供給強化の施策と併せて車の両輪として電池の普及を達成していきたいと思っております。

引き続き依田副会長の音頭で乾杯を行い、出席者相互の歓談に入った。

正賛会員各社、関連企業、関連団体などの関係者約300名の出席を得て、終始和やかな雰囲気の中で賀詞交歓会が行われ、和田副会長が中締めを行い盛会裏に終了した。



優良従業員表彰

新年賀詞交歓会に先立ち、平成24年度優良従業員の表彰式が行われ、本間充会長より、各受賞者に賞状と記念品が授与された。

今回受賞の榮譽に輝いたのは、次の12社15名の方々。

受賞者（順不同、敬称略）

黒崎 崇	(NECエナジーデバイス株式会社)	武田 正一	(ソニーエナジー・デバイス株式会社)
石原 政一	(FDKエナジー株式会社)	保科 昇	(ソニーエナジー・デバイス株式会社)
樺澤 博	(FDKTワイセル株式会社)	佐藤 元昭	(東芝ホームアプライアンス株式会社)
小島 謙二	(三洋電機株式会社)	太田 好彦	(パナソニック株式会社)
東原 毅	(三洋電機株式会社)	中野 公博	(パナソニック株式会社)
酒井 政幸	(株式会社GSユアサ)	中西 健二	(日立マクセル株式会社)
唐本 章弘	(新神戸電機株式会社)	佐藤 一夫	(古河電池株式会社)
若菱 和夫	(セイコーインスツル株式会社)		



「電池は正しく使いましょう」 PRキャンペーン終了

平成24年電池月間キャンペーンイベントの「電池は正しく使いましょう」PRキャンペーンクイズは、11月1日～12月31日の2ヵ月にわたり実施しました。キャンペーン期間中、新聞広告、雑誌広告、携帯サイト、ホームページで広くキャンペーン内容を告知し、全国各地から多数の応募がありました。今回のキャンペーン広告は昨年引き続き、①電池のプラス・マイナスを逆さにして使わない。②長い間使わないときは、電池を機器から取り出すなどの「電池は正しく使いましょう」と、電池の4通りの廃棄の仕方について広報する「電池を使い終わったら・・・」の2大テーマで展開しました。期間中に寄せられた応募総数は、59,989通にのぼりました。

厳正なる抽選の結果、10万円旅行券は、江川えり様、三浦由美子様、横張久美子様の3名が、1,000円分クオカードは、大坪幸代様を始め100名の方々が当選されました。



松本亀太郎氏は、1885年(明治18年)京都市で生まれました。京都府立第一中学校を中途退学後は数年間職業を転々としたが、21歳の時に漸くサンデン電気商会大阪支店に奉職しました。4年間の勤務で独立の自信を持ったのち、1909年(明治42年)4月にサンデンを退社し、資本金100円で松本電気商会を設立して、電気器具の国内販売及び輸出の事業を始めました。

当初の取扱品の主なものは、サン・ランプの2等品電球でしたが、岡田電気商会の乾電池、懐中電灯も取扱い、業績をあげました。岡田の電池を販売したことがキッカケとなり、のちに乾電池の製造を行なうに至りました。やがて華僑との取引により、中国への輸出を急速に伸ばしました。当時の取扱商品には相当な利幅があり、業績も日々向上したので、開業以来僅か1ヵ月ほどの間に、当時の金で1万円余の銀行預金を持つようになりました。しかし、華僑が取引の事情に明るくなると、直接メーカーとの取引を始めようになり、販売業者としての事業収入は、次第に減少して行きました。

そこで明治44年上京し、東京における商品仕入れのかたわら、直接乾電池の製造に乗り出すこととなりました。当時、屋井、日本、日本電池、岡田電気の外に、S.K乾電池として売り出していた鈴木商会が芝田村町にあり、ここの電池の性能に注目して、その製造法を探り出そうとしましたが不首尾に終わりました。そこで、自宅の二階を工場にして試作を始めました。基礎的知識があるわけでもなく、全くあてずっぽうで実験を繰り返すうちに、どうやら灯りがつくものができるようになり、南佐久町2丁目に本格的な工場を作りました。製品はすべて大阪に送っていましたが、鹿児島眼鏡店明視堂を始めとして、注文が増大するに及び、東京は不利であるので大正3年2月に大阪に帰って乾電池の製造を続けました。翌4年には立売堀に工場を移すとともに、名称を松本乾電池製造所と改めました。当時の工員は30名位で、日産3,000から4,000個でした。

大正9年には工場を本田通2丁目に移転し、規模

を拡張して、工員も100人を超える盛業となり次いで工場を鶴見橋に移転しました。敷地千数百坪、建物5百坪の工場も、間もなく手狭を感じさせるようになりました。他の同業者同様、大正14年のラジオ放送開始による乾電池の需要増大は、工場に一層の盛況をもたらし、B電池の生産は1ヵ月3万個の実績をあげるに至りました。

昭和4年には個人経営の事業を改め、資本金3万円で朝日乾電池株式会社を設立しました。この頃に乾電池の製造品種も灯火用及び各種の有線無線通信用電池のほか、自転車ランプ、豆球の製造を学びました。同時に得意先を官庁方面にも伸ばし、通信省や朝鮮総督府の指定メーカーとなりました。

昭和10年、共存共栄を目標に、松下電器産業株式会社と提携するとともに、氏は松下電器産業の取締役就任しました。その後、朝日乾電池は、第2次世界大戦遂行に伴う経済統制の強化、商工省の斡旋など諸般の事情から、昭和18年松下電器産業株式会社と合併し、氏は同社の監査役に就任しました。

一方で乾電池業界における西日本の指導者として、永く組合運動に力を尽くし、大きな功績を残しました。昭和6年頃から全国乾電池製造業組合の設立に奔走し、のち近畿乾電池工業組合の理事長に就任、続いて西日本乾電池工業組合の理事長に推され、18年同組合解散に至るまでその職にありました。また昭和16年全国乾電池工業組合連合会が締結されるや、その理事にも選任されました。

極めて活動的であった氏も、老齢と病には勝てず、昭和32年4月13日腹膜炎になり、不帰の客となりました。行年73歳でした。



松本 亀太郎氏

平成25年 1月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	11日(金)	平成24年度 優良従業員表彰式	
	11日(金)	平成25年 新年賀詞交歓会	約300名の方々にご出席頂いた。
	11日(金)	広報総合委員会	PRキャンペーン抽選会実施、新規でんちフェスタ会場の選定、小冊子の改訂検討、他。
	16日(水)	国際環境規制総合委員会	海外環境規制に関する情報確認。
二次電池部会	8日(火)	産業用電池リサイクル委員会	産業用電池リサイクルスキームの検討。
	10日(木)	S0101WG	SBA S010 改訂審議。
	15日(火)	自動車鉛分科会	ブラジル新法規対応。
	16日(水)	用語分科会	SBA S0405 SBA G0901 改訂審議。
	17日(木)	産業用電池技術サービス分科会	SBA G 0606改正審議他。
	18日(金)	業務分科会	自主統計、区分・分類見直し。
	18日(金)	資材分科会	部材供給リスク情報、他。
	18日(金)	充電器分科会	SBA G 0901、SBA G 0902改正審議、他。
	21日(月)	据置鉛分科会	IEC61427 JWG82対応審議(TC21国内審議)。
	23日(水)	産業用電池統計分科会	産業用電池統計数値の確認。
	25日(金)	電気車用電池リサイクル分科会	フォークリフト用電池リサイクルスキームの検討。
	25日(金)	PL委員会、技サ分科会合同委員会	除雪車用電池安全対応、バッテリーテスター対応、他。
	28日(月)	資材委員会	韓国廃バッテリー流出報道の確認。
	30日(水)	自動車用電池リサイクル委員会	有価リサイクルシステム検討。
	30日(水)	技術委員会	SAB規格改定審議、TC21国内審議委員会。
小型二次電池部会	9日(水)	法規WG	電池規制内容検討。
	10日(木)	次世代蓄電池委員会	産業用Li-Ionの普及検討。
	15日(火)	据置LIB分科会	IEC62619、IEC62620、IEC61427-2等の検討。
	15日(火)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	16日(水)	LIB蓄電システムWG	機器指定基準(案)の検討。
	16日(水)	ニカド・ニッケル水素分科会	JIS C 8712改正審議。
	17日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	IEC61951-1、-2審議、他。
	18日(金)	リチウム二次分科会	JIS C 8712改正審議。
	22日(火)	国際電池輸送委員会	米国リチウム電池輸送規則 対応審議。
	25日(金)	業務委員会	自主統計実績確認。
24日(金) 25日(土)	ニカド・ニッケル水素/ リチウム二次合同分科会	JIS C 8712改正審議。	
28日(月)	国際電池規格委員会	IEC/ANSI/UL/中国規格審議、25年度計画審議。	
一次電池部会	17日(木)	リチウム小委員会	平成25年度活動計画、リチウム電池輸送規制関係、他。
	18日(金)	規格小委員会	平成25年度活動計画、JIS C 8514、IEC60086シリーズ改正審議、他。
	23日(水)	ボタン電池回収推進委員会	平成25年度活動計画および予算案検討。

11月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2012年11月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

（2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました）

（2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました）

（「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む）

（2012年より経済産業省の機械統計が「酸化銀電池」に「その他の乾電池」が含まれました）

（2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました）

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	405,327	62,565	92%	103%	4,164,473	725,665	85%	117%
一次電池計	283,578	10,276	95%	98%	2,686,314	90,233	85%	88%
酸化銀電池	96,843	1,764	107%	101%	858,473	16,065	89%	94%
アルカリ乾電池計	121,458	5,952	94%	101%	1,023,390	43,882	82%	83%
単 三	66,115	2,712	90%	97%	569,667	20,658	82%	86%
単 四	34,823	1,459	97%	103%	294,940	11,125	89%	98%
その他	20,520	1,781	101%	107%	158,783	12,099	69%	70%
リチウム電池	65,277	2,560	84%	89%	804,451	30,286	84%	92%
二次電池計	121,749	52,289	84%	104%	1,478,159	635,432	87%	123%
鉛電池計	3,061	15,055	102%	95%	29,439	144,791	106%	102%
自動車用	2,336	9,390	101%	96%	21,767	85,989	108%	104%
その他の鉛蓄電池	725	5,665	107%	94%	7,672	58,802	102%	99%
アルカリ蓄電池計	51,738	16,626	101%	101%	585,573	203,281	107%	143%
ニッケル水素	39,058	14,908	107%	102%	421,421	183,550	114%	154%
その他のアルカリ蓄電池	12,680	1,718	86%	89%	164,152	19,731	94%	85%
リチウムイオン蓄電池計	66,950	20,608	74%	114%	863,147	287,360	76%	123%
車載用	6,787	8,082	—	—	59,093	117,891	—	—
その他	60,163	12,526	—	—	804,054	169,469	—	—

11月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2012年11月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	171,410	27,924	91%	122%	2,002,405	305,428	83%	107%
一次電池計	78,072	1,839	91%	97%	857,145	21,125	79%	92%
マンガン	423	12	90%	75%	6,613	160	65%	59%
アルカリ	3,623	54	78%	62%	51,836	832	35%	36%
酸化銀	44,380	592	107%	98%	409,108	5,812	88%	94%
リチウム	29,471	1,095	76%	93%	385,674	13,165	85%	98%
空気亜鉛	128	1	562%	193%	1,486	15	15%	14%
その他の一次	47	85	180%	2415%	2,428	1,141	392%	172%
二次電池計	93,338	26,084	91%	124%	1,145,260	284,303	86%	108%
鉛蓄電池	173	724	153%	120%	1,570	8,117	110%	111%
ニカド	9,958	784	85%	77%	130,239	10,809	94%	87%
ニッケル鉄	0	0	—	—	16	2	>>>	133%
ニッケル水素	13,367	4,756	112%	133%	131,262	50,697	92%	120%
リチウムイオン	64,418	14,055	87%	100%	811,640	164,700	83%	91%
その他の二次	5,421	5,765	116%	324%	70,533	49,978	105%	257%
全電池合計（輸 入）	147,652	10,627	180%	128%	1,250,398	97,595	90%	104%
一次電池計	138,807	1,751	190%	201%	1,163,616	14,358	90%	79%
マンガン	16,196	207	120%	173%	179,285	1,605	61%	46%
アルカリ	107,040	1,111	229%	230%	822,307	8,523	95%	77%
酸化銀	286	8	95%	114%	4,933	115	118%	130%
リチウム	11,768	364	121%	165%	109,967	3,330	123%	127%
空気亜鉛	2,917	41	128%	139%	43,536	550	125%	109%
その他の一次	600	21	169%	191%	3,587	236	27%	53%
二次電池計	8,845	8,876	98%	119%	86,782	83,236	95%	110%
鉛蓄電池	739	2,453	99%	97%	7,522	26,696	95%	105%
ニカド	93	150	16%	95%	4,258	1,926	64%	101%
ニッケル鉄	0	0	—	—	0	1	1%	6%
ニッケル水素	2,187	571	—	—	17,827	5,251	—	—
リチウムイオン	5,280	4,703	—	—	49,798	37,160	—	—
その他の二次	545	999	—	—	7,376	12,203	—	—